

製本のススメ

Vol. 89

雨の季節になりました。ムシムシした日が続きますね。この時期から食中毒の危険が急に高まります。特に日中を過ごしたカレーは危険がいっぱい！まな板や包丁もしっかり洗いましょう。

今回はへたくそな見積もり依頼の話（その1）

昨今 見積り依頼が増えてきました。それだけ競争も激しくなっていますね。ならばこちらも協力しましょうと思いますが、赤字にするわけにはいきません。製本は最終工程で、様々な出来事が発生します。それらを見越して見積るので**情報が少ないほど金額はアップします**

さて皆さんは こんな見積り依頼を出していませんか？

A 4 239 頁 扉有り 無線綴じ 1000 冊 表紙：ウェブロンカラー中厚 本文：HS スノーフォース 115k
--

この情報で分かるのは、数量と頁数サイズと、最終加工方法です。

では、何処がへたくそなのでしょう？
まず**紙屋さんほど用紙の品名知識が多くありません**。紙は日進月歩で

新作が作られ、またメーカーによっても、呼び名が変わります。特殊紙を使用の場合には、サンプルを見せるか、類似品などの目安を付けやすいヒントを付けてください。**紙によっては加工不可なものも多くあり、いざとなつて加工を断られる場合もあります**。また最近では、フィルムや PET 材なども増えてきました。紙以外の材料である時にはその旨を明確に表示しておきましょう。

どんな刷り本になるのかわからない。16 頁(八つ折)なのか 8 頁(四つ折)なのか
或いは 4 頁(二つ折)なのか、全部ペラなのか・・・ここが決まらなると算出できません
製本は、同じ物でも作り方が変われば金額も変わるのです。

次に**扉は何枚で、何処に入るのか？** この場所は重要で、台と台の間ならば良いですが折丁の中などの場合(最悪では)折丁を広げ、その中に貼り込み、再度手で折り直すという作業が発生します(中貼り)余談ですが**扉とは、開けると本文が出てくるもので、最終ページに扉はあり得ません**。(扉を開けても裏表紙ですから)この場合は扉ではなく、遊び紙となります。



Tea break

皆さんは何しに書店に行きますか？最近の書店は喫茶コーナーや音楽コーナーがあり、コミュニティな場になっています。こんな作り方おもしろいな、このサイズは使いやすい等、資料が満載です。印刷業界に携わる者としては、お茶を飲みながら大いに活用するべきですね

by (株) 井関製本